

令和4年 9月22日
国土交通省九州地方整備局
緑川ダム管理所

【速報】台風14号の大雨における 緑川ダム防災操作の効果について

緑川ダムでは、9月18日から19日に防災操作を行いました。
ダムへ流れてくる水量の一部をダムへ貯めることで、ダム下流へ
流す水量を約2割低減しました。

これにより、ダム下流の中甲橋水位観測地点においては、水位を
約24cm低下させ氾濫注意水位超過を回避する効果があったと推定
されます。

- ・ 緑川ダムでは、19日1時30分に毎秒約1059m³の流入があり、
そのうち毎秒181m³を貯留して毎秒878m³を流し、下流河川の増水を
緩和しました。
- ・ 緑川ダム流域平均総雨量：483.2mm（17日3時～19日24時）

また、緑川ダムでは、記録的な大雨が予測されたことから、雨が
降り出す前に事前放流を行いました。貯水位を低下させることによ
り約475万m³の容量を増強し、緊急放流のリスクを低減しました。

- ・ 緑川ダムの洪水調節容量 2,400万m³
事前放流により確保した容量 2,875万m³（約2割増強）

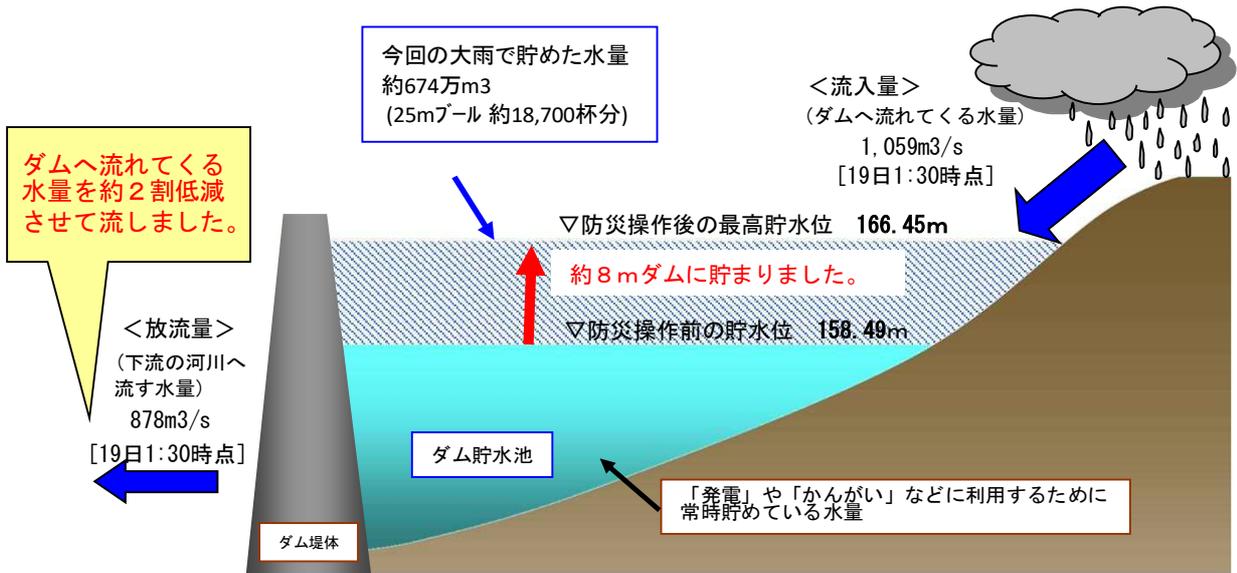
緑川ダム管理所HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/midori/>

問い合わせ先：国土交通省 緑川ダム管理所

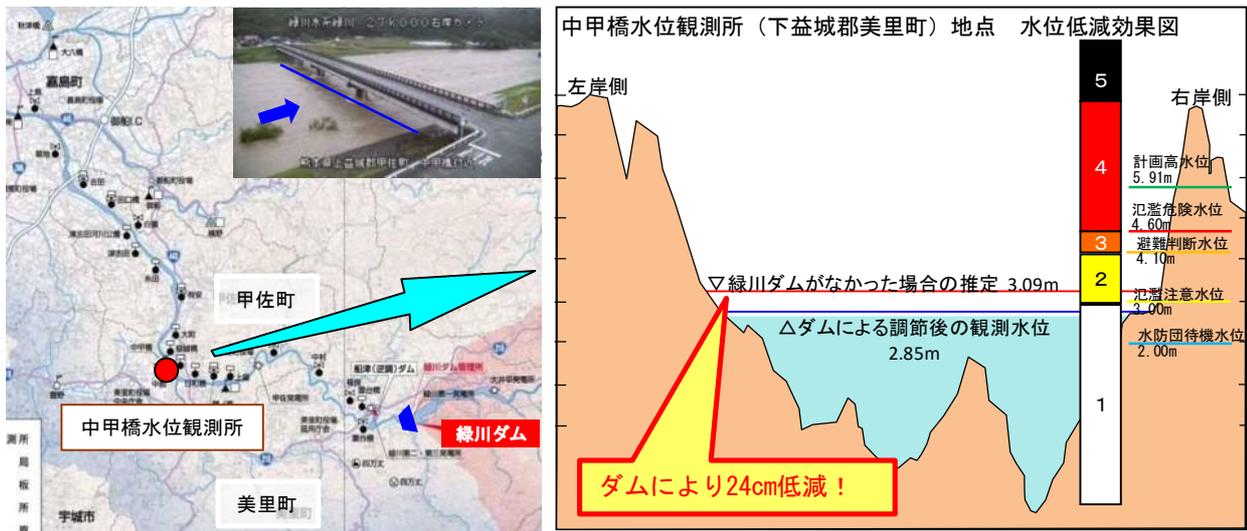
専門官 藤川 保則

電話：0964-48-0216（代） FAX：0964-48-0752

【緑川ダムでの防災操作】



【緑川ダムにおける水位低減効果(最大)】



※ダムがなかった場合の河川推定水位やその低減量等、本発表における数値は速報値です。最終的に整理される数値とは異なる場合があります。

【緑川ダムにおける流木捕捉効果】

洪水により大量の流木・塵芥が流れ込みました。貯水池に設置している網場で捕捉したことで、下流河川の河道閉塞等の被害を未然に防止しています。



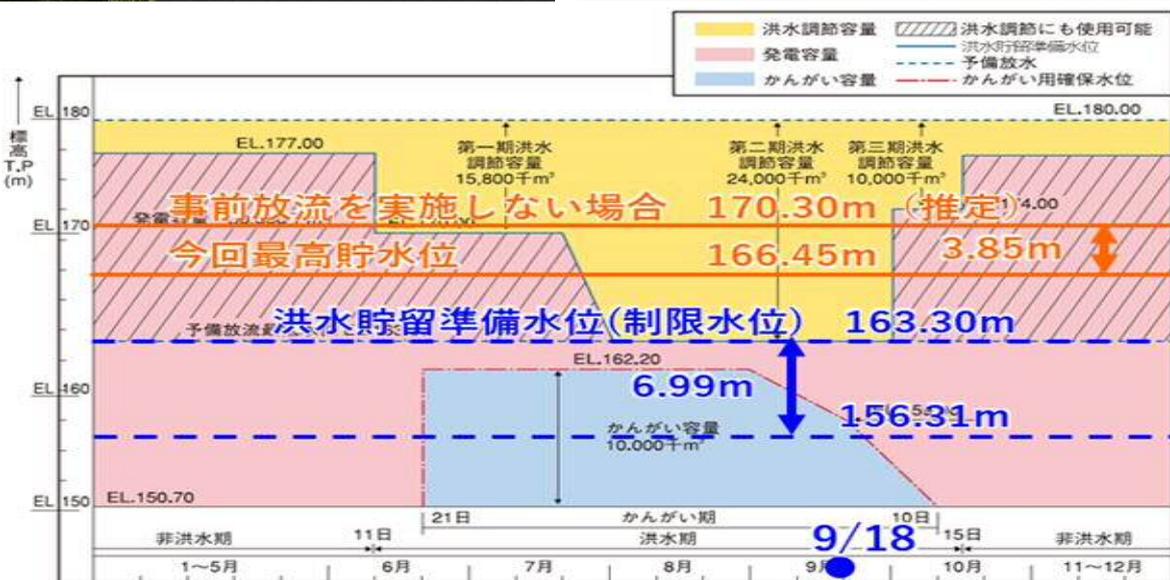
【平常時】



【洪水後】

【緑川ダムの事前放流】

- ・9月16日(金)7時17分に予測降雨量が230.4mm/12時間となり、基準(206mm/12時間)を超過しました。
- ・このため、関係機関の合意を得たうえで、16日11時00分から事前放流を実施し、18日1時00分には156.31mまで低下しました。
- ・この事前放流により、洪水調節容量(2,400万m³)に加え更に475万m³の容量を確保しました。
- ・事前放流を行わなかった場合は貯水位は最高170.30mと考えられ約3.85m低減したと推定されます。(今回最高:166.45m)



※事前放流とは：洪水の発生を予想した場合に、利水の共同事業者に支障を与えない範囲で、制限水位以下の利水容量などを放流して、治水容量として一時的に活用するもの。

